

第1章 調査研究の概要

- 1 調査の目的
- 2 調査の計画
- 3 調査の内容
- 4 調査研究の方法等

第1章 調査研究の概要

1 調査研究の目的

障がい者の生涯学習を推進していく上で、学びを身近で支える教育行政の果たす役割は重要である。

こうしたことから、道内の障がい者の生涯学習活動の推進に係る取組について実態調査を行い、課題を把握するとともに、障がい者の生涯学習を進めるための効果的な取組事例を調査分析し、その成果を発信することで、各市町村において障がい者の生涯学習の推進に向けた様々な取組の展開に寄与することを目的に実施する。

2 調査研究の計画

本研究は、令和2年度（2020年度）から令和4年度（2022年度）の3ヵ年で実施した調査研究の報告である。

（1）令和2年度（2020年度）：実態調査1「道内市町村における『障がい者の生涯学習』に関する実態調査」

令和2年度（2020年度）において、道内178市町村を対象に障がい者が行う学習活動に関するアンケート調査を実施し、その実態を把握した。

（2）令和3年度（2021年度）：実地調査「障がいのある人の自然体験に係る学習機会の充実に向けた実地調査」

令和3年度（2021年度）において、障がいの有無にかかわらず全ての人が体験できる「自然体験や地域散策を通じて学ぶツアー」の実践に向けた調査を行い、今後の障がいのある方を対象としたツアープログラムの実施に向けた実証研究を行った。

実地調査の場所は、北海道十勝地方の社会教育施設や景勝地等とし、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、障がいのある人によるツアーの実施が実現できなかったことから、調査員が現地調査記録動画を撮影し、障がいのある人2名に視聴してもらい、ヒアリングを行った。

（3）令和4年度（2022年度）：実態調査2「道内市町村における『障がい者の生涯学習』に関する実態調査」

令和4年度（2022年度）において、障がい者が行う学習活動に対して、道内の各市町村教育委員会等が実際に行っている支援、学習者等が求める支援等について調査し、その実態を把握した。

アンケート調査は、毎年実施している「生涯学習推進体制の整備状況調査」に、障がい者の生涯学習活動に関する項目を新たに加えて実施するとともに、「生涯学習に関する住民の意識調査」の「障がい者福祉に関する学習」への課題意識の項目の結果を中心に検討することとした。

(4) 令和4年度(2022年度): 現地調査「『障がい者の生涯学習』に関する事業及び社会教育施設の現地調査」

令和4年度(2022年度)において、障がい者が行う学習活動に対して、市町村教育委員会等が実際に行っている事業等の実施及び具体例を聞き取り等で把握するとともに、障がい者への対応を行っている社会教育施設等の体制状況について、視察及び聞き取り等で把握した。

ヒアリング及び視察の対象としたのは、名寄市・名寄市教育委員会、名寄市民文化センター、釧路市生涯学習センター、釧路市中央図書館、大空町教育委員会の5つの機関・施設である。

(5) 令和4年度(2022年度): 実証研究「障がいのある方を対象とした体験活動支援施設における事業の実証研究」

令和4年度(2022年度)において、障がいの有無に関わらず、全ての人が体験できる青少年教育施設における活動の実践や参加者への調査を通じて、今後の障がいのある方を対象としたプログラム実施に向けた実証研究を行い、成果と課題を明らかにした。

実証事業については、北海道立青少年体験活動支援施設2箇所において、障がいのある人と介助者を対象に実施した。